

## 22年度インフルエンザワクチン予防接種について

昨季は新型インフルエンザのワクチンと季節性のワクチンを別々に接種する必要がありましたが、新たに両方に対応する混合型ワクチンが作られ、今季は1回で接種できるようになりました。接種料金等は次の通りです。なお、新型インフルエンザのみのワクチン接種を希望される方は、接種医師にご相談下さい。

### ■インフルエンザワクチン予防接種

	一 般	高齢者等
接種対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>右記の高齢者等以外の方</li> <li>高齢者等に該当する方で2回目の接種が必要な方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>満65歳以上の方</li> <li>満60歳以上65歳未満の方で心臓・腎臓・呼吸器の機能障害、もしくはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害で身体障害者手帳1級をお持ちの方、または同程度と診断された方</li> </ul>
接種料金	<ul style="list-style-type: none"> <li>実費負担（生活保護世帯及び市民税非課税世帯は市内及び北播磨管内の指定医療機関での接種は、接種前申請により無料券を発行します。市役所1階、国保健康課で申請手続きをして下さい。健康保険証など本人であることが確認できるもの、印鑑をお持ち下さい。指定医療機関以外での接種は償還払い（申請により後日、市から返金）となります。</li> <li>なお、診察のみで接種できなかった場合も料金が発生します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内及び北播磨管内の指定医療機関での接種は無料（上限3,600円を市が負担）。接種料金3,600円を超えた場合は、超過分は自己負担となります。</li> <li>※これ以外の医療機関で接種する場合は、事前に手続きが必要ですので、接種予定日までに国保健康課で申請して下さい。</li> </ul>
接種回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>13歳未満は2回（1歳未満の接種は医療機関に相談して下さい）</li> <li>13歳以上は1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>接種期間内に1回</li> </ul>
接種期間	平成23年3月31日（木）まで	

市内接種医療機関／市内の指定医療機関は次の通りです。事前に予約して下さい。

医療機関	電話番号	備考	医療機関	電話番号	備考
あさじ医院	☎44 0225		市立加西病院	☎42 2200	
安積医院	☎46 0361		田尻内科循環器科	☎43 7931	※1
荒木医院	☎43 9711		つつみ神経内科	☎45 2050	
いずみ泌尿器科	☎45 5900	※1	徳岡内科	☎42 0178	※4
医療福祉センターきずな	☎44 2881	※2	西村医院	☎49 0001	
大杉内科医院	☎47 0023		西村耳鼻咽喉科	☎42 6020	
小野寺医院	☎48 3737		北条田仲病院	☎42 4950	※5
おりた外科胃腸科	☎42 6000		堀井内科医院	☎49 0150	
さかいこどもクリニック	☎43 0415		みのりクリニック	☎49 8470	
坂部整形外科	☎43 1444	※1	三宅医院	☎49 0067	
さたけ小児科	☎43 1717	※3	横田内科医院	☎42 5715	※1
佐竹医院	☎42 4057		米田病院	☎48 3591	※1

※1／入院・通院患者のみ接種 ※2／入院・通院患者及びその家族のみ接種 ※3／高齢者等を除く ※4／乳幼児を除く ※5／小学生以下を除く



### ■インフルエンザ予防のために、家族みんなで継続しましょう

- ・帰宅時のうがい、手洗いを習慣化しましょう。
- ・インフルエンザ流行時は、人混みや繁華街への外出を控えましょう。
- ・十分な休養と常日ごろからバランスよく栄養をとり抵抗力を高めましょう。
- ・朝の体温測定を習慣化して、自分で健康チェックをしましょう。
- ・咳、くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りのひとから顔をそむける等、咳エチケットを守りましょう。
- ・症状のある人はマスクを正しく着用し、感染防止に努めましょう。

【問合せ】 国保健康課健康担当 ☎428723 FAX427521 kenko@city.kasai.lg.jp

## 加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

### 『多剤耐性菌』

#### ■多剤耐性菌とは

先月の帝京大病院の多剤耐性アシネトバクター院内感染の報道で、また医療に関する誤解が社会に広がらなければよいが、と懸念を持ちました。

多剤耐性菌とは、多種の抗菌薬に抵抗の強い菌のことです。菌が抵抗性を持つ理由は二つあります。一つは元々その菌種が薬に強いからです。もう一つは感染症の治療を続けると抵抗力のある菌株が生き残り、周囲に広がっていくためです。耐性化したといっても菌の性質が変わる訳ではなく、感染力や毒性は元の菌と同じです。

アシネトバクターは湿気の場所を好み、日常生活で普通に接触する菌です。人への病原性は乏しい半面、抗菌薬に強い性質を持っています。今回の多剤耐性アシネトバクターは自然な耐性に加えて、医療現場で抗菌薬に揉まれていくうちに、より広い耐性を獲得したものと考えられます。過去の調査では、日本の1割以上の病院で検出されています。

#### ■院内感染とは

院内感染とは、病原性が強く集団感染を起こし易いインフルエンザやノロウイルス、あるいは起炎菌になると厄介なメチシリン耐性ブドウ球菌や多剤耐性緑膿菌など、監視対象の微生物が院内の複数の患者に感染症を引き起こすことを指します。これを防ぐのに標準予防策があります。

厳密に言えば、入院中の患者さんが院内の細菌に触れないことは不可能です。市民がバスに乗ってシートや手すりについた菌に触れないのが不可能なのと同じです。標準予防策は、感染し易い患者さんに大量の菌が暴露することを避ける方策です。集団感染を防ぐ上で効果があります。しかし院内の菌を絶対に患者に感染させない完璧性は望むべくもありません。その確率を減らすことができるだけです。

#### ■医療の限界

今回のように医療のトラブルが報道される時、当該施設

の問題と混同され、院内感染は病院の落ち度が原因で起こるといった誤解が生まれると、医療現場は限界を越えた対応を強いられ疲弊しモチベーションを失います。加西病院は感染防止に積極的で、加西市感染防止ネットワークを組織して、地域全体の啓発に努めています。それでも院内感染をゼロにすることはできません。人や物の限界もありますが、もっと本質的には病院は重症患者が集まる場所であることが限界なのです。

加えて我が国は感染症対策への診療報酬が薄く、感染防止に力を入れるほど病院の持ち出しになるのが実情です。経営上の限界から職員数を増やさず感染対策に人手を投入すれば、他所が手薄になって別のリスクが増えるだけです。絶対的な人手不足状態が続く医療現場では、より切実な場所に人を配置するバランスをとることしか為し得ません。

#### ■医療の本質を理解して病院を守ろう！

医療の結果は本質的に不確実です。多くの病人は医療によって利益を受けますが、治療目的を達成できないこともあれば、悪くなることすら有り得ます。医療を受けることは、このような不確実性を受け入れることであることをご理解下さい。加西病院は市民に質の高い急性期医療を提供するため、教育研修に力を入れ、医療レベル向上のため組織横断的な活動を多数実施させています。しかし、感染対策一つをとっていても、人と金の不足が足枷となっています。より多くの市民に、より充実した医療を受けていただけるよう、尊いご寄附をお待ちしています。

（病院事業管理者・院長 山邊裕）



【写真】ICT（感染制御チーム）の活動

院内感染を防止し、感染症の治療が適切に行われるよう、他職種からなるチームが院内を回診し、医療の助言と環境監視を行っています。

## いい歯のお手本 8020達成者を表彰

加西市歯科医師会と加西市が進める、80歳になっても自分の歯を20本残そうという取り組み「8020運動」の達成者として次の皆さんが表彰されました。11月8日(月)は「いい歯の日」。皆さんも8020を目指し、健康な歯を保ちましょう。

相江としね	朝田 語	石田幸子	井上純一	岩井義一	上田はる	大久保多代
柿本 弘	金澤みゆ子	衣笠 進	黒田岩雄	古角ちか	小林しづ子	佐伯敏子
佐伯トミ子	三枝美代子	坂本三郎	繁田昌幸	芝 幸博	柴田鈴子	菅野 治
高見正三	高見哲平	為広道夫	土井ふさの	東一妙子	中村豊子	西村耕一
西村史郎	姫尾和恵	松井昭二	松田敏和	松本春子	丸井 俊	三宅増雄
明井知照	村田吉良	森本きぬ子	安田省三	安田智計	山下輝雄	(五十音順)



敬老月間ふるさと芸能大会で達成者を表彰

【問合せ】 国保健康課健康担当 ☎428723 FAX427521 kenko@city.kasai.lg.jp